

公益社団法人日本地球惑星科学連合  
平成 28 年度第 6 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 29 年 1 月 17 日(火)  
15 時 10 分から 18 時 00 分

2. 開催場所 東京大学理学部1号館 331 号室  
(東京都文京区本郷 7-3-1)

3. 出席者 理事数 20 名  
出席理事 15 名 (定足数 11 名 会議成立)  
出席監事 1 名  
オブザーバー 10 名

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 川幡 穂高  
理事 津田 敏隆  
理事 田近 英一  
理事 中村 正人  
理事 古村 孝志  
理事 井出 哲  
理事 ウォリスサイモン  
理事 小口 高  
理事 小口 千明  
理事 奥村 晃史  
理事 北 和之  
理事 木村 学  
理事 中村 昭子  
理事 浜野 洋三  
理事 日比谷 紀之  
監事 鈴木 善和

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘  
宇宙惑星科学セクションバイspreジデント 中村 昭子(理事)  
宇宙惑星科学セクション幹事 橋 省吾

大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬  
大気水圏科学セクションバイスプレジデント 杉田 倫明  
大気水圏科学セクションバイスプレジデント 佐藤 薫  
地球人間圏科学セクションプレジデント 春山 成子  
地球人間圏科学セクションバイスプレジデント 奥村 晃史(理事)  
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治  
学協会長会議 議長 坂本 尚義  
広報普及委員会 委員長 田近 英一(理事)  
大会準備 TF 末廣 潔  
教育検討委員会委員長 畠山 正恒

15時10分、理事の定数に足る出席を確認後、会長川幡穂高は理事会が成立することを宣言し、第6回理事会を開始した。インターネット電話 Skype を利用し、遠隔地から参加する北和之理事、中村昭子理事、杉田倫明バイスプレジデント、大谷栄治セクションプレジデントが審議に参加できることを確認した。

#### 【前回議事録確認】

第5回理事会議事録について、確認し、了承された。

#### 7. 審議事項

##### 第1号議案 新入会員承認の件

定款第8条2項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

##### 第2号議案 委員会委員承認の件

環境災害対応委員および教育検討委員を資料の通り承認した。

##### 第3号議案 平成28年度事業報告(案)・決算報告書(案)について

平成28年度事業報告ならびに決算報告書について、検討中の案が確認された。現在の案を踏まえて、提出までに総務委員会ならびに財務委員会を中心に検討することとなった。今年度の決算が黒字となるが、逆に、来年度はAGU-JpGU共同大会で赤字となる。平成28-30年度全体で収支に見合うように当初プランをたてており、予定どおりに計画が進行していることが報告され、了承された。

##### 第4号議案 平成29年度事業計画書(案)・予算書(案)について

平成29年度事業計画書ならびに予算書について、検討中の案について説明された。予算書案については、収支均衡のため、前年度黒字分の繰り入れ、および連合各委員会およびセクションへの配分額の圧縮を行うことが確認された。各セクションへの配分額は以下のように提示されることとした。

宇宙惑星 80万円、大気水圏 130万円、地球人間圏 55万円、

固体地球 90 万円、地球生命 70 万円

引き続き、提出までに、総務委員会ならびに財務委員会を中心に検討することとなった。

第 5 号議案 ダイバーシティ推進委員会ジェンダーサミット10協賛の件

小口千明理事よりダイバーシティ推進委員会ジェンダーサミット 10 に関する開催概要の説明があり、審議の結果、協賛することが承認された。

第 6 号議案 東北大学災害科学国際研究所の共同利用・共同拠点化に向けたサポートレターの発行依頼について

古村孝志理事より、東北大学災害科学国際研究所の共同利用・共同拠点化に向けたサポートレターの提出依頼について説明があった。

この件については、東北大学災害科学国際研究所が現在行なっている取り組みは日本ではじめてのことであるので、サポートレターの発行をサポートする意味で、春山成子地球人間圏科学セクションプレジデントより以下の紹介があった。

「第 3 回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定され、災害による死亡者数、被災者数、直接的な経済損失、重要なインフラへの被害を削減するなどを含む7つのグローバルターゲットの達成に向けた取り組み合意されたが、目標の進捗状況をモニタリングし評価するために各国が基本となる災害被害統計を整備する必要がある。災害被害統計が整備された国は先進国も含めて少ないのが現状であり、東北大学災害科学国際研究所は UNDP との連携を中心に災害被害統計整備に向けた支援を目的に「災害統計グローバルセンター」を 2015 年 4 月に設置した。」

<http://liaison.lab.irides.tohoku.ac.jp/international-liaison/gcdfs/gcdfs-2>

大谷栄治固体地球科学セクションプレジデントから「同研究所は、防災科学の中心になっている機関であり、東北大学のリーディング大学院(安全・安心)プログラムにおいても研究よび人材育成に中心的役割を担っています。したがって、連合としての支援は適切であると思っています」とのコメントを得た。

審議の結果、サポートレターの発行が承認された。

## 8. 報告事項

### (1)川幡穂高代表理事職務報告

ジャーナル担当報告として、川幡会長より論文投稿・出版状況、データペーパー会合の開催に関する報告があった。昨年 11 月末にトムソン・ロイター(現在 Clarivate Analytics 社)を大谷プレジデント、Mysen 委員と訪問し、PEPS の計画、現状を説明した旨報告があった。

PEPS に論文を書いてくださった方へのトラベルサポートについて、再度募集をかけていることが報告された。

続いて、AGU との今後の協力について、2017 年以降、①AGU との共同セッションの継続、②AGU の 100 年祭の共同事業、③2020 年に AGU から共同開催の提案があったことが報告された。

### (2)田近英一理事(広報普及担当)職務報告

田近理事より、2016年11月26日に開催された秋の公開講演会のご報告があり、アンケート結果やコメントが紹介された。高校生を集める目的でここ数年、東大理学部の高中生イベントに相乗りして開催してきたが、今回は単独開催のため、高校生の参加者を増やすことは難しく、参加対象を一般まで広げて募集した。結果は、やはり高校生の参加者が少ない等、課題が多いが、内容は好評であった。アンケート結果は今後の広報活動の参考にするとのことだった。続いて連合大会中のプレス対応とハイライト、プレスリリースについて説明があった。今年から、大会広報も広報普及委員会が担当すること、ハイライトについてはプレスリリースに準じた位置づけとし、取材希望者には立候補していただく旨の報告があった。プレスエリアには会見用のパネルを設置し、そこで取材を受けていただけるよう検討中であることが報告された。

### (3) 中村正人理事(顕彰担当)職務報告

中村理事より、フェロー審査委員会、振興西田賞ともに3月の理事会での報告に向けて準備中であることが報告された。振興西田賞は10名と規定にあるが審査の結果、賞に値するものが10名に満たないことが起こるかも知れない。今後、このような場合の取り扱いについて理事会で議論する場を設ける必要があるかもしれないとのことだった。

### (4) 古村孝志理事(総務担当)職務報告

学協会長会議の幹事会規則(案)について、古村理事より説明があり、幹事会規則(案)の「サイエンスセクションや分野、学会規模を考慮して」を「サイエンスセクションや分野のバランスを考慮して」に修正することを確認した。法人運営基本規定の第6条に記載の「代議員の定数は、150名とする。」の定数を確認した。代議員の定数に関しては、今年実施される代議員選挙に係る為、代議員選挙についての課題を次回理事会(第7回理事会)で検討することが確認された。定款変更について決議し、社員総会に諮ることとした。なお、学協会長会議には近日中に連合会長より本規則(案)を提出し、検討を依頼することとした。その他、連合の後援・協賛・共催一覧の確認があった。続いて、平成28年度事業報告および平成29年度の事業計画書の説明があった。

### (5) 北和之理事報告(財務担当)職務報告

平成28年決算案および平成29年度の予算案について、北財務委員長から報告があった。決算案については、前回理事会以降大きな変更は無いことが示された。予算案については、連合大会セッション数増加に伴い会場使用料なども増加するために、支出が当初予定より大幅に増加することになったこと、収入もこれまでの傾向より大会参加者数が20%増加し、また前年度の黒字を繰り入れることによって増加し、ほぼ収支が均衡する案が作成されたことが報告された。浜野理事より予算案について、補足説明があった。平成29年度予算案の支出額は平成28年度決算に比べて5000万円増になっている。これはAGUとのジョイントミーティングにあたって、会場・会期の増加と国内及び国外からの参加者に対するサービス向上を目指したためである。この支出増に対応する収入としては、平成28年度大会に比して20%の参加者増の見込み、平成28年度の黒字分約1400万円繰り入れに加え千葉県・千葉市からの約1400万円の補助金もあり、当初からの計画通り、複数年度で収支が均衡する予算案となっていることが紹介された。

#### (6) 浜野洋三理事(大会運営担当)職務報告

2017年大会の準備状況について、浜野理事より報告があった。セッション数は32%増であった。2017年大会はジョイントミーティングとのことで、参加者サービスにも力を入れ、新たな取り組みを予定している。会期が6日間となり、一般参加者の方向けにも二日間の開催、アイスブレイカーも行う。今回からポスターコアタイムは従来の夕方のコアタイム(PM3と表示)だけでなく、口頭セッション終了後の1コマもコアタイムとすることとした。また、日曜日に行なう基調講演の時間(PM2)は、他のセッションを開催しないので、出席者全員に聞いてほしい。また、川幡会長より、大会期間中の5月22日(月)に開催されるプレジデンシャルレセプションについて準備中である旨、報告があった。

#### (7) JpGU2017年大会準備タスクフォース報告

末廣TF主査よりジョイント大会に向けてのAGUとの連携事項が資料の通り報告された。プログラム委員会(AGUとの合同)の尽力により、セッション提案採択数は前年より32%増しであった。ジョイントミーティングということで、今回、海外から初めてJpGUに来る方も多くいらっしゃると思定している。その際、JpGUがどのような活動をしている団体なのかが手に取っていただけて良くわかるような簡単なパンフレットの作成を検討中である。2017年大会に向け、いままで順調に準備を進められているが、今後の課題も考えながら、2018年以降の引継ぎとして、AGUとの関係をどのように構築していくか、今後さらにAGUと現場レベルの話し合いを詰めていきたい。タスクフォースに正式メンバーとして興野純(Atsushi Kyono)氏(筑波大)が昨年11月より参加され、AGUとの大会中の共同イベント企画を主に担当することが報告された。

#### (8) グローバル委員会活動報告

木村理事より、AGU Fall Meeting 2016へのブース出展およびJpGU参加報告があった。AGUから、2020年にAGUとJpGUのジョイントミーティングを再び開催したいとの依頼(資料P47参照)されたことについて改めて説明があった。グローバル委員会はこれを了承し、今後の合同大会に向けて、財政の問題と体制の問題を考えていくこととなったと報告があった。グローバル委員会では今後実現に向けて具体的な話を進めることが確認された。海外とのMOUの締結に関しては、特に台湾、韓国を対象として具体的に検討を始める旨の説明があり、これが認められた。また、アジア諸国との今後の関係について、AOGSとの関わりについて議論された。AOGS、EGUとの海外でのシンポジウム開催を検討する等、まずは合同大会以外の方法で各機関が参加しやすい形から始めてみる等、今後、海外のJpGUと同じ立場の機関とも良い関係を構築していけるような方法を検討していきたい。また、高橋幸弘宇宙惑星科学セクションプレジデントより、アジア諸国との今後の関わり方の必要性について説明があった。アジア諸国との関わり方については、津田前会長より、海外と合同学会開催というお付き合いの方法以外にも、連合の学会運営のノウハウを生かし、自国で学会を作る力の足りない国に対して、学会を作るお手伝いをするという貢献の仕方でもできるというお話があった。次回の理事会までに、高橋幸弘宇宙惑星科学セクションプレジデントを中心に、アジア諸国との今後の関わりについて、現状、将来の計画などをまとめたA4版で1-2ページの書類を提出して下さるよう、理事会として依頼することとなった。

(9)教育検討委員会活動報告(教育検討委員会委員畠山氏より)

新地学基礎の提言に関して、昨年、文科省に提出した新「地学基礎(2単位)」内容案に対して文科省より、さらなる精選化が求められたことが報告された。この内容の検討については、今後、教育検討委員会で更なる精選化の検討を行ったうえで、理事会にて再度添削することとした。

(10)その他

ユニオンサイエンスボードメンバーの改訂について検討された。会長、前会長、副会長、セクションプレジデントは最新の情報に更新し、有識者として日本学術会議から大久保修平氏、JAXA から川口淳一郎氏、東京大学から中村尚氏に引き続き就任していただくことが承認された。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(18時00分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成29年1月17日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第6回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	井出	哲	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	木村	学	印

出席理事 中村 昭子 印

出席理事 浜野 洋三 印

出席理事 日比谷 紀之 印

出席監事 鈴木 善和 印